会　報

クマタカ

第15号

2017年4月1日発行　http://stopdam.aso3.org/

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康　熊本市西区島崎4丁目5-13

立野ダム事業費を震災復興に！

コンクリートで固められた長陽大橋東側 2017.2.13

熊本地震から１年が過ぎようとしています。地震とその後の大雨で、立野ダム建設予定地の両岸は大きく崩壊し、ダム湖予定地周辺の大半が崩れました。復旧中の長陽大橋東側では、土砂崩壊した斜面全体がコンクリートで固められています。このまま立野ダムをつくるのならば、ダム湖周辺の崩壊箇所全てにこのような対策が必要です。

昨年夏に国交省が設置した技術委員会は、同省の「立野ダム建設は技術的に可能」との見解をそのまま認めてしまいました。しかし、技術的にダム本体は造れても、ダムが機能しないばかりか、大雨などでダムに水がたまった状態で斜面の崩落があった場合、ダムの水があふれて大惨事になるなど、危険であることは明らかです。

今後も立野ダム建設を続けた場合、917 億円の 立野ダム事業費が、地震による建設現場の復旧や地すべり対策、資材費の高騰などで大幅に増えることは明らかです。国土交通省の「今後も立野ダムの事業費は増えない、工期も延びない」との見解はあり得ません。河川改修で白川の流下能力は大幅に向上し、立野ダムを建設する必要はありません。立野ダム事業費は、震災復興に投入すべきです。

南阿蘇復興に立野ダム不要

山野　敞69＝元会社員（熊本市）

18日に南阿蘇村の復興計画が承認されました。熊本地震で南阿蘇村も甚大な被害を受けているので、復興が一日も早く進むことを願わずにはいられません。

復興計画の主な内容の中に、立野地区に立野ダムや駅と連動した「立野ターミナル」の開発とありました。この計画を作られた方は、立野ダムのことをご存じないのではないかと思います。立野ダムは通常時は水をためないダムです。水が貯まるのは大雨の時だけです。当然土石や流木を含んだ泥水です。

立野ダム建設の技術委員会では、貯水池周りの斜面には地滑り対策工事を行うとしています。つまり、いま貯水池周りの斜面は全面的に崩落していますので、コンクリートで固めてしまうことになる可能性があります。産山村の大蘇ダムのように。立野ダムについては、懸念や疑問が多く、国交省の説明もなされていません。このようなダム計画を復興計画に取り込むこと自体信じられません。

ダムの工事現場で、仮排水路トンネルは土砂や流木でふさがり、白川の工事用仮橋や道路、工事用重機なども流されたり、埋まったりと多大な被害を被っています。一からやり直しです。費用も時間もいくら掛るか分かりません。

ダムを造るよりも、メモリアルパークとして保存し、復興ミュージアムとして整備するほうが防災対策としても、阿蘇ジオパークとしての観光資源としてもはるかに有意義であり効果的です。

熊本日日新聞「読者の広場」 2017. 1. 31

●立野ダムをめぐる動き 2016年10月～2017年3月

2016年10月15日　緊急学習会パート２　熊本地震と立野ダム（熊本市120名参加）
11月 6日　熊本地震・立野峡谷写真展（サンロード新市街）
12月 5日　国土交通省立野ダム工事事務所に公開質問状（４通目）を提出
12月22日　2017年度政府予算案で立野ダム建設事業に48億3800万円
2017年 1月18日　南阿蘇村復興計画を策定委員会が承認
1月16日　熊本日日新聞社説に「立野ダム 丁寧に説明重ねる姿勢を」掲載
3月 6日　4月16日のシンポジウムでの説明を求める「立野ダム建設に係る技術委員会に関する説明を求める要請書」を国交省立野ダム工事事務所に提出
3月16日「立野峡谷の土砂崩壊の対策等に関する質問状」を熊本県に提出
3月28日　ダムによらない治水利水を考える県議の会の白川河川改修現地視察に同行

●サンロード新市街で熊本地震･立野峡谷写真展を開催！

新市街で写真展 2016.11.6

11月 6日、熊本地震・立野峡谷写真展を熊本市サンロード新市街で開きました。会員が撮影した熊本地震前後の立野峡谷の写真パネルなど50枚ほどをアーケードの中心に展示しました。

多くの人が立ち止まり、一様に驚かれていました。立野峡谷に巨大ダムがつくられようとしていることも、立野峡谷の今の状態も、知っている人は全くと言ってよいほどいませんでした。今後も写真展やミニ集会を、多くの箇所で開きたいと思います。

●会計報告(2016年1月1日～2017年3月31日まで)

収入の部	金額	備考
繰越金	４，７６９	
年会費・カンパ	７４０，３５６	
合計	７４５，１２５	

支出の部	金額	備考
郵送費、印紙代	２６８，３３６	会報発送、資料発送、ブックレット発送
事務用品費	４７，８６７	紙代、封筒代、プリンターインク代
会場費	５３，４９０	集会等５回
ブックレット120冊	８４，０００	流域首長、議員等に送付
カラーチラシ作製配布	１７８，９９７	Ａ４版両面印刷１枚約２円、チラシ配布
その他	１０８，０００	講師謝礼、印刷機使用料
合計	７４０，６９０	

（収入）７４５，１２５－（支出）７４０，６９０＝４，４３５円

●会員拡大にご協力ください！

最近の集会等にご参加いただいた皆様にも、会報15号をお送りしました。「立野ダムによらない自然と生活を守る会」は、皆様方の年会費（一口1000円）とご寄付のみで運営しております。今回、2017年度分の会費振替用紙を同封させていただきました。領収書は払込用紙の「受領証」でこれに代えさせていただいております。ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

●熊本日日新聞社説（2017年1月16日）

丁寧に説明重ねる姿勢を

立野ダム

社説

県内に大きな被害を与えた熊本地震が、国営立野ダム（南阿蘇村、大津町）問題にも影響を与えている。国土交通省は「建設に支障はない」として2017年度の本体着工を目指すが、建設に反対する住民団体は安全性への懸念から抗議の声を上げ続けている。

立野ダムは、白川の洪水を防ぐために国交省が1983年に事業を始めた治水ダム。堤の高さ約90㍍、長さ約200㍍、総貯水量は約1千万㌧。下部に5㍍四方の三つの放流口があり、平常時は一番低い穴から水が流れる。放流口の流下能力を超えた時だけ自動的に水がたまり、洪水を調整する仕組みだ。完成予定は22年度。

熊本地震では、ダム湖となる場所の崖が大規模に崩れたほか、約2㌔しか離れていない上流の阿蘇大橋が崩落。工事用道路や建設機械も土砂で埋まった。

流域住民の間でダム建設を不安視する声が高まり、国会でも取り上げられる事態となった。このため国交省は昨年7月、ダム構造や活断層、地質などの学識者7人からなる技術委員会を設置し、検証作業に取り掛かった。

技術委は8月3日に現地調査を実施。2週間後の最終会合では最大の焦点だった「ダム下部の放流口が流木などでふさがり、洪水調整機能を失う恐れ」について検討し、模型実験などから「ふさがらない」と結論付け、事実上ダム建設を容認した。

これに対し、建設に反対する住民団体「立野ダムによらない自然と生活を守る会」は、「結論ありきで疑問だらけだ」と猛反発する。特に問題視しているのは、流木や岩、土砂がそれぞれ単独で流れる想定で模型実験が実施されている点だ。

守る会は「実際は一緒に流れるし、流木と絡むことで岩が石橋のように組み合い、そこに土砂が堆積すれば放流口はふさがる」と指摘。「放流口がふさがって水位が上がった状態で大量の土砂が流れ込めば、ダムから水があふれ津波のように下流を襲う」と危険性を訴える。

国交省の説明責任の在り方への批判も根強い。立野ダム工事事務所は技術委の報告書をホームページに掲載しているほか、流域自治体の庁舎などに置いて閲覧できるようにしているが、一方で守る会がこれまで4回提出した公開質問状には1回も回答していない。

総事業費についての懸念もある。熊本地震の復旧工事を中心とした県発注工事では、人件費や資材の高騰などによって受注業者が決まらない入札の「不調」や「不落」が相次いでいる。東京五輪が近づき拍車が掛かる恐れもあり、当初の総事業費約917億円が膨らむ可能性もある。

97年に改正された河川法には、河川事業への住民参加が盛り込まれている。熊本地震を経験したことによって、立野ダムに対する住民の意識は大きく変わったと言えよう。国交省は、ダムの安全性や必要性について丁寧に説明を重ねる姿勢を持つべきだ。

緊急学習会パート2「熊本地震と立野ダム」

緊急学習会の会場 2016.10.15

昨年 10 月 15 日に熊本市のパレアで開いた緊急学習会パート２「熊本地震と立野ダム」は、約 120 名の参加者で会場はほぼ満席となりました。

崇城大学名誉教授の村田重之先生（土質工学・防災工学）に、「阿蘇の過去の豪雨災害から立野ダムを考える」と題してご講演いただきました。

阿蘇では過去、豪雨で大きな土砂崩れを繰り返し、スギ・ヒノキを中心とした植林が土砂とともに大量に流出したこと。それらが、橋に引っ掛かり濁流をせき止め、濁流や岩石、流木が集落を襲い被害を拡大したこと。そのことを考えると、５ｍ四方の立野ダムの穴は流木などでふさがってしまうこと。ダムではない治水に工夫を凝らす必要があること。災害に強い森林につくり替えていくことが重要であること等が語られました。

誰のための立野ダム建設なのか？

国土交通省はこれまで、住民が提出した４通の公開質問状に何ら回答しません。回答しない理由として「上司には正しく伝えている。疑問に対してはホームページで答えている」と繰り返すばかりです。しかし、同省立野ダム工事事務所のホームページ「立野ダム建設事業に関するよくあるご質問について」に掲載された見解は、住民が出した質問に対して肝心な点には答えておらず、質問と回答が全くかみ合っていません。

4通目の公開質問状提出 2016.12.5

国交省は、住民が何度も要請した立野ダム説明会さえ一度も開催しません。4 月 16 日のシンポジウムに出席し、立野ダムの説明をするよう要請書も提出したのですが、出席を拒否されました。

住民に説明もできない事業は、住民のための事業とはとても言えません。これまで国交省に提出し、何ら回答を得ていない 4 通の公開質問状などを当会ホームページに掲載しています。

編集後記 4 月 16 日は熊本地震１周年ということで、火山岩岩石学が専門で、阿蘇および熊本地域の更新世以降の火山岩に関する地球化学的研究を進められている熊本学園大学の新村太郎先生をお招きします。詳しくは同封のチラシをご覧ください。◇７月８日は九州北部豪雨５周年ということで「白川の改修と立野ダムはどうなっているのか？」と題し、国土交通省で河川行政一筋に取り組まれてきた宮本博司さんをお招きします。宮本さんは、1978 年に旧建設省に入り、河川開発課課長補佐などを経て、苫田ダム、長良川河口堰を担当。その後、国交省近畿地方整備局淀川河川事務所長として淀川水系流域委員会の立ち上げに尽力。同局河川部長をへて本省河川局防災課長を最後に 2006 年辞職されました。２つのシンポでどのようなお話が聞けるか、とても楽しみです。どうぞご参加ください。（N.O.）